

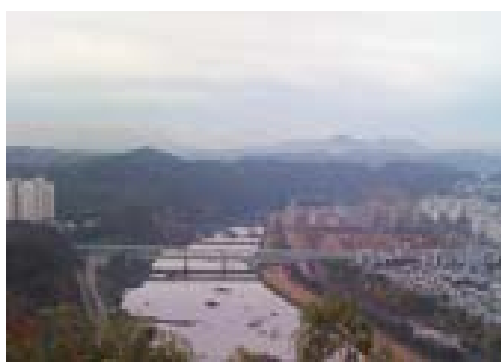
## 図書館職員交流報告

萩原 泰子 （信州大学医学部図書館）

### 1. はじめに

2011年10月13日～25日、韓国にある慶尚（キョンサン）大学校図書館との協定による職員交流で、韓国の大学図書館を訪問した。以下、訪問先の概要と印象に残った点を中心に報告する。

### 2. 慶尚大学校図書館の紹介



ジンサン ナムガン  
晋山からの南河の眺め



キョンサン  
慶尚大学校正門

慶尚大学校は、歴史の長さや立地環境では信州大学と似通っている。創立は1948年、メインキャンパスは、釜山から車で1時間半ほどの自然豊かな地方都市、晋州（ジンジュ）市に位置する。ただ大学規模は格段に大きく、学部だけで12学部、学生数は2倍以上である。



中央図書館

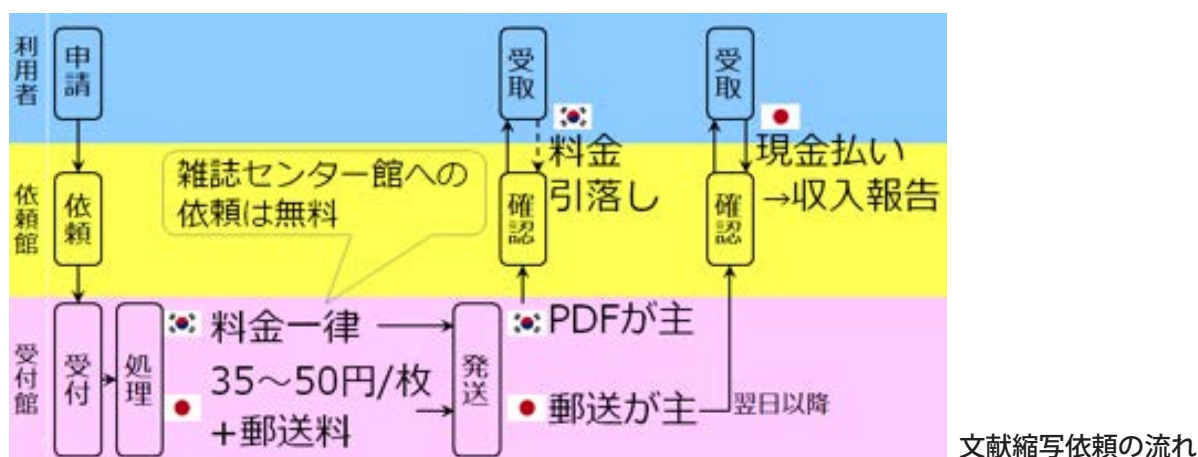
図書館はメインキャンパスの加佐（カジャ）に4館あり、医学部の七岩（チラン）と海洋科学部の統営（トンヨン）にそれぞれ1館ずつ、全部で6館ある。

利用者数が多いからといって、図書館の数や図書館職員の人数が信州大学より多いわけではない。それでも業務は円滑に行われており、その原因の一つには日本の大学図書館との仕組みの違いがあるように感じた。

### 3. 韓国と日本の大学図書館の違い

今回見学した中で特に印象に残った違いは、文献複写サービスと電子ジャーナル・データベース（EJ・DB）のコンソーシアムの差である。

文献複写サービスの流れについて、韓国と日本を比較すると下図のようになる。なお、今回の滞在では医学部の図書館を中心に業務内容の説明を受けたため、図は韓国の医学図書館協会 KMLA が提供するサービス MEDLIS との比較になる。



|  | 頻度     | 方法              | 手続き   |
|--|--------|-----------------|-------|
|  | 毎月     | CMSによる口座間の引落・振込 | 通帳の確認 |
|  | 3か月に1回 | NIIへ支払または振込     | 書類の作成 |

文献複写  
料金精算方法

複写物の授受方法が主としてPDF（ただし、ダウンロードはできない）であることは、効率の点からだけでなく、利用者への文献提供も迅速に行えるという点で優れている。また、現金の精算に関して、各図書館での書類作成が必要ないという点も無駄がないと感じた。

次に、EJ・DB コンソーシアムは左の表のようにになっている。補足として、それぞれが提供する文献複写サービスシステムも右の列に挙げてある。

|  | コンソーシアム | 参加館          | 契約  | DDS                  |
|--|---------|--------------|-----|----------------------|
|  | KESLI   | EJ           | 524 | NDSL                 |
|  | KERIS   | DB e-Book    | 196 | 国内代理店<br>または<br>指定一社 |
|  | KMLA    | 医学系          | 95  | MEDLIS               |
|  | JUSTICE | EJ DB e-Book | 502 | 随章契約<br>見積合せ<br>入札など |

EJ・DB コンソーシアム

日本では、契約業者を各図書館で選択するため、それに伴う手続きがそれぞれの図書館で必要になる。これに対して韓国では、あらかじめコンソーシアムで決められた1社との契約になるため、契約業務の煩雑さが軽減される。

また、KESLIの文献複写サービス NDSL は、1997年に科学技術省と情報コミュニケーション省の支援を受けてはじめられている。KERISも2002年に教育人材育成省の組織に入ったという経緯があり、いずれも韓国政府のサポート体制の下で事業を進めている。

これらのことから、各図書館がそれぞれの方針を持っているのが日本の大学図書館であるとするれば、強力なリーダーシップにより一つの方針を共有しているのが韓国の大学図書館であるという印象を受けた。

#### 4. 慶尚大学校図書館のとりくみ

続いて、慶尚大学校図書館で行われていた興味深いプログラムを3つ紹介する。



リーディングクラブ  
『文化で生計をたてるには』

一つ目は、リーディングクラブと呼ばれる読書クラブで、学生が図書館の購入した図書を受取り、館内のグループ学習室で活動できるというものである。

2011年9月からはじまり、2011年12月時点では127名の学生が参加していた。1つのグループは6～10名で構成され、週1回集まっている。この活動の経費には、政府から大学に割振られた、学生の教育向上を目的とした予算の一部が充てられている。



読書認証評価室

二つ目は、読書卒業認証制度である。図書館のとりくみとは少し外れるが、卒業単位取得の選択必修科目の一つにボランティア、海外渡航（グローバルリーダーシップ）と並んで読書10冊がある。学生は、館内の読書認証評価室で図書を選んで読み、Web上で問題に回答する。卒業単位としての読書というものと教務に関係して図書館の役割があるという事が新鮮だった。



10minutes コンサート  
アンサンブル

三つ目は、中央図書館のロビーでアーティストを招いて開催される 10minutes コンサートである。毎週木曜 16 時半から行われ、開催の様子は図書館のホームページに掲載される。音楽だけでなく伝統舞踊なども披露され、毎回 50 ～ 100 名が観覧を楽しんでいる。

## 5. おわりに

今回の訪問前までは、韓国と日本の大学図書館にそれほど大きな違いがあるとは思っていなかった。隣の国でありながら、実は知っていることは少なかったのだと認識した。また、個人的には韓国の文化や言語を学ぶよい機会にもなった。慶尚大学校図書館の方々には、拙い韓国語も気にせず大らかに暖かく対応していただき、大変感謝している。勉強になることが多かった一方で、なぜ韓国の大学図書館に行くのかということについては、明確な答えが出せなかった。今後の日々や継続する職員交流を通して答えを見つけ、結果として業務に反映することが現在の課題である。



中央図書館ロビー  
テーマ図書展示の前にて